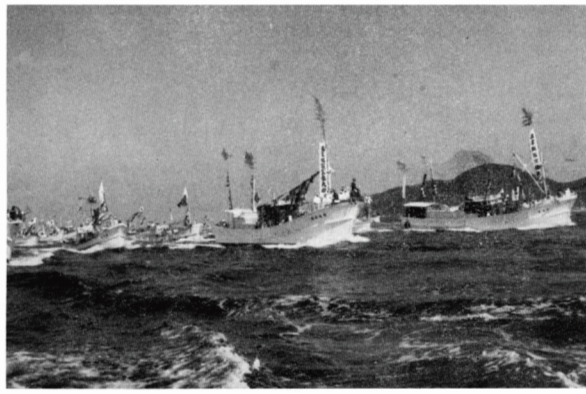




毎月十五日発行
大 社 会
宗 像
電話 0940-62-1311代
定価 一年送料共 1000円

神具、装束
結婚式場用品
本社 九州店
福岡市博多区東公園二二二(八二二)
電話 093-511919(九二五)
京都市下京区小橋東入北八(八〇〇)
電話 京都部(三三) 三四三三四(四番)

神郡の秋を彩る 玄界灘の一大ページェント



当大社秋季大祭(たしほ)に際して御祭神の新しい御神輿をお迎えする行事である。去る十月一日から三日迄厳肅且つ盛大に斎行された。

本大祭の初詣を飾るべく海上大絵巻、海上神幸(み)あれ祭りは、十月一日盛大に執り行われた。

この海上神幸は、玄界灘の沖ノ島に鎮座される宗像大社沖津宮さま、大島宮さまの御神輿(みしるし)を一年に一度、陸地の宗像大社津津宮にお迎えする神事である。

この「みあれ祭」については、昭和三十七年に計画され、同年九月二十三日に、約七百年振りに復活、第一回目の「みあれ祭」(海上神幸)が執り行われたのである。

そもそも、みあれ祭(御生祭)は、例大祭(十月二日)に際して御祭神の新しい御神輿をお迎えする行事であって、古くは「オンナガテの神幸」(御長妙の神事)として厳修せられていた。(このことは、正平年中行事、宗像大菩薩御縁起等に遡る)

また、これは沖ノ島の特産の竹(竹竿)のように真直な竹に十尺の紅白の布をつけたものを神輿(ひもろぎ)として奉遷したものであるといわれている。今日は祭の意義からして十月一日に執り行われている。

先ず、この海上神幸に先だって九月十一日、沖津宮の御神輿(みしるし)をお迎え(御座船)して海久丸(遠藤友久船長)大島宮(大島津宮)が執り行われた。そして、宗像大菩薩御縁起に、静かに接岸され、そこへ、沖津宮・中津宮・津津宮の御神輿をそれぞれ神

論 説

自民党の「靖国神社公式参拝合意」論に対する中曽根首相の意見はまだ示されていないが、その自民党見解について国民の間には議論が盛まっていることは周知のとおりである。今回発足した懇談会でも当然、自民党見解は討議の重要な焦点の一つにされて然るべきものだが、大方が予想できるように、この懇談会が憲法解釈に関して一致した結論に達する可能性は甚だ薄い。いや、仮りに何らかの結論を得たとしても、その憲法解釈をめぐる新たな新しい議論がおこるとみるのが、日

「靖国懇」発足に思う

本現況では常識である。懇談会にどれほどの期待をかけているのかは知らぬが、中曽根首相は今からそのことを肝に銘じておくべきだろう。

関係等の靖国神社公式参拝は是非とも自民党の権利の保障をいっそう確実にしようとの目的で設けられてきた。しかし「自民党」のいうのは、もともと自民党の権利の保障をいっそう確実にしようとの目的で設けられてきた。靖国神社に関する問題は、とくに日本国の社会的・文化的条件に於いて、それと異なるべきものがある。したがって、この懇談会が憲法解釈に関して一致した結論に達する可能性は甚だ薄い。いや、仮りに何らかの結論を得たとしても、その憲法解釈をめぐる新たな新しい議論がおこるとみるのが、日

七五三祭の御案内

毎年十一月十五日に数え年三才の男女、五才の男児、七才の女児を連れて神社に参拝し、今日までの無事発育を感謝し、更に将来の成長を祈願するお祝いです。

七五三という語は、明治初年頃からであろうか、昔は三才の男女は髪置、五才の男子は袴着、七才の女子は紐落しの祝儀が行われ、そして元服、着喪の式へと進むのであるが、時期も日取も一定していなかった。今日の様に十一月十五日と定めたのは、陰陽道に唱える鬼宿の日、二十八宿の一つで、毎月その日が吉日となるので、これを一陽来復の鬼宿の日、つまり十五日と定めた。

又(一説には、元和元年(一六八二)徳川五代将軍綱吉の子徳松の祝いが十一月十五日であったからと云われている。)

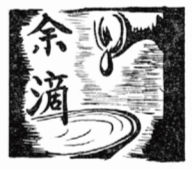
当社では、お子様の健やかな成長と御健康を御奉告する、恒例の「七五三まつり」を、本年も左記のように盛大に執り行いますので、皆様方お誘い合せの上御参拝下さいませ。御案内申し上げます。

期間 昭和五十九年十一月三日(十一月十八日) (尚、この期間以外でも、おまつりは行っております。)

初穂料 一件(二人) 参十円

一各理子ごとに式内山の追加となります。

授与品 御祈願お申し込みのお子様には、お守り、千歳飴、御幣等を授与致します。



十月一日から吉田・多礼ダムの給水が始まった。巨額の費用を投じて建設されたこのダムには、いま満々と水が溢れ、郡内住民の命を預かる貴重な水がめとして心強い限りである。この安心感の根柢にあるものは豊かな雨量を約束してくれる疑いのない自然に対する信頼である。しかしながらこの至極当然と思える自然への期待も外国では大分事情が異なるようである。我が国では道路を造る場合、排水水を捨てるのは当然のことであるが、そうでない国が先進国の中でも可成り多い。雨が少いのでその必要がないのである。(評) 一読、抵抗なく感動が受け入れられて、爽やかなものが残った。

深田 中野 節子
亡き夫が棺の繩もて繕へて松葉帯手に広前を掃く

東福岡 山本 夏枝
日盛りの公園しらら照るのみの砂地になにかつきる雀

大島 目原 節子
引潮にぬれたる砂の広がりて踏みゆく吾の影長々し

大島 屋形とみえ
病みがちの吾の残りて亡き夫に迎へ火を焚く渚の暗く

大島 中村さつき
眺の冷し空気を吸ひ乍ら弾力のある岸の草を刈る

香椎 桜井 ツ子
朝の目覚めに朝顔の移ろひてけさは寂しきひとつ

徳重 石松や寿子
慎しく敷園の咲く庭すみに柿の病葉日に日に散れる

第二七九回 宗像大社歌会詠草

毎月末日 中村 吾郎 選

八幡西 磯谷 緑雨
草の穂を摘(つか)みてゆるふ赤蜻蛉秋立つ風に身をゆだねつつ

原町 塩川ハルコ
八つ手の葉をにわか叩く音のして大粒の雨落ではじける

福岡 広渡一寿軒
産土神の諏訪の宮居は我が郷の民の弥栄護り給え

大島 板矢あきえ
杖つきて歩く老いなきありとショウウィンドに写りて哀れ

天野トモエ
台風は曲々過ぎぬ真向ひの許斐の峯に深く息吸ふ

原町 八波 五月
まだ嫁かぬ娘のことも気にすれば夢にやさしく子を抱きてみよ

吉留 白木うめ
山頂をさげし雲の移りゆく今日の城山に登りて見た

戸畑 田中ハツセ
日の光筋なす木蔭を登りきて心安らぐけふの山路に

八幡西 山田 耕夕
わが唄ふ好日請再来(ホーリ)ンツァイ(エイ)に耳すます友は戦地を偲びあらし

原町 中村 幸
おくれつつ危うく下る墓原道老木の松濃きかけ引けり

田熊 力丸 一郎
旅に見る飛脚の峠は秋はさきならびめ

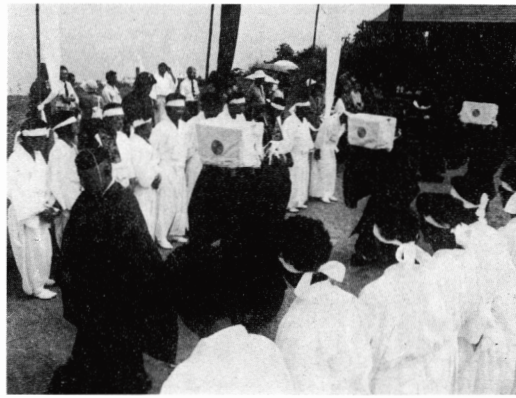
名古屋 原田 道子
かたはれのしほにひびく神鈴に今し明けくる三輪の神山

水巻 新田 香織
紅染めて亡母のごとくに紫蘇もむ手取りより白鷺の二羽舞ひ立り

吉留 高山 信子
杉の枝ゆつり合いつ、繁りいてどちらも日当る自然に学ぶ

田島放生会 いよいよ秋本番

去る十月一日より当地方 通しやや曇りがちな天候で 秋を告げる宗像大社秋季 には秋を告げる宗像大社秋季 はあったが、例年にも増し 大祭が盛大かつ厳粛に斎行 された。本年度は三日間を 連日境内には後遅くまで賑



た。 九月三十日、昼過ぎまで 大祭の準備も終り、午後 五時より総社地主祭斎行、 続いて宵宮祭が斎行され、 この大祭が滞りなく行われ るように厳かな祈りが捧げ られた。

長崎県小浜町の宗像神社 造替遷座祭斎行

宗像大神の御分霊を奉遷

去る九月十三日、宗像三 柱大神の御分霊を長崎県 南高来郡小浜町北町鎮座 宗像神社(進藤芳香宮司) に奉遷、正遷座祭並びに 奉祝祭が氏子総出の下(約 八十戸)で厳粛かつ盛大に 斎行された。

この神職、拝殿等の造替 にあたっては、同神社の氏 子代表により、造宮委員会 (会長島崎四郎太) が組 織、結成され、本年五月 に、宗像神全国総本宮であ る当大社に島崎会長外数名 は貸切バスにて帰路に着い



会長をはじめとして、参列 された各代表者が玉串拝礼 を行ない、先ず一日祭が滞 りなく斎行された。

十月一日午前八時三十 分、筑前大島に鎮座する、 中津宮を出御され、海上神 幸・陸上神幸の御幸をされ て、辺津宮へ入御された。 沖津宮・中津宮・辺津宮の 大神様の神前に、御食御酒 の篤信者より奉獻された神 酒や果物、宗像七浦よりの 魚等、盛沢山のお供物が献 供され、宗像宮司の朗々と 読まれた御祝詞が奏上され た。続いて田島地区 青年閉奉仕による風鳥地区 奉納され、宮司玉串拝礼に 続き、鎮国寺住職、又氏子

た。一旦神社の仮宮に奉安 されたが、八月十日、木の 香かおる真新しい神輿へ奉 遷され御遷座祭が斎行され た。例祭日の九月十三日、 氏子全員が祝賀の意を以っ て、宗像神社神輿落成祝賀 奉告祭が盛大に斎行され た。

(御案内)

十一月の各種催し

—— 錦秋の一日をぐゅっくりお過ごし下さい ——

第十四回 西日本菊花大会

十一月一日から二十四日まで 境内を埋める三〇、〇〇〇本の菊

西日本地区を代表する菊 花の祭典である西日本菊花 大会は本年も規模をさらに 大きくして、第十四回大会 を十一月一日より同十四 日迄、当大社境内特設会場 に於いて開催される。

本大会は全日本菊花大会 に次ぐ西日本最大の菊花展 として、鉢裁・品種・作風 種類の多さはもとより、福 岡・佐賀・山口・長崎・熊 本・大分各県の代表的菊花 製作者が丹精込めて作出し た銘花の技術的水準は極め て高く、愛菊家を始め全国 各地の関心を集めて、二十 一年度大会は十月二十一日 日宗像地区商工会青年部の 奉仕により境内神前広場に 陳列ハウス二〇〇余棟が 仮設され、同二十五日三 十日迄の六日間に亘り菊花 の搬入作業が続き約四千鉢 の優秀銘花が出揃い、十一 月一日の開会、審査を待つ ことになっている。

主催する宗像大社菊花会 は一月・四月・七月・九月 の四回に亘り理事役員会を 開催し今年度の大綱並開催 要項につき慎重審議して次 のように最終決定した。

名称 第十四回西日本菊花 大会
期日 十一月一日・同二十 四日
審査 十一月一日(成績発 表・同日)
搬入 十月二十八日
搬出 十一月二十五日
場所 当大社境内特設会場
出品 九州各地の二三菊 花団体より約四千鉢



出品の予定(特に今 大会は大輪アロマ作 り五鉢花壇、小品盆 裁五鉢花壇の部が新 設され、旧来の大輪

奉納吟剣詩舞大会

流れる香と共に 流れる美声

境内に黄菊・白菊が咲き 競い、花の香を漂う中、熊 本市に本部を置き、清香吟 社(会長益中桜月)社中の 会員により、恒例の秋の奉 納吟剣詩舞大会が開催され 約七〇〇名が参加して開催 される。

本大会は野試合で、個人 戦、それぞれの部で宗像地 区の最高剣士の栄誉を掛け て、熱戦が繰りひろげら れる。

境内には終日、竹刀の打 ち合う響きがこだまする。

期日 十一月三日(土) 開始時間 午前九時より
会場 本殿横境内 (但し雨天の場 合は玄海小学校 を添えます)

奉納柔道大会

将来の山下泰裕を 夢みて

市・郡内中学校の一・二 年生が参加して、個人戦。

期日 十一月十一日(日) 開始時間 午前九時より
会場 本殿横境内 (但し雨天の場 合は玄海小学校 を添えます)

献詠短歌大会

大和心と歌の道 約二〇〇名が参加

県内でも権威のある短歌 大会で約二〇〇名の方々が 参加して開催される。

当日は、山田輝彦先生の 講演に始まり、斯界の著名 な先生方を講師としてお招 きし、講師・指導をお願い すると共に、参加者相互の 批評・感想を発表するなど、規模・質共にすぐれた 大会として定評がありま す。

歌の道に少しでも興味を お持ちの方は、是非御参加 下さい。

期日 十一月十一日(日) 開始時間 午前九時より
会場 本殿横境内

宗像大社本因坊戦

一盤盤の上で 熱い闘い

宗像地区のアマチュア囲 碁棋士が参加、本因坊戦、 有段者大会が開催される。 本因坊戦は四段以上の強 豪により、本年の実力ナン パーワンの座をかけて、静 かな熱い棋戦が繰りひろげ られる。

開碁ファンにとっては、 待望の秋到来、今年も充実 した大会となりそうです。

期日 十一月二十三日(金) 受付時間 午前九時三十分 開始時間 午前五十分迄
会場 高館

奉納空手道演武会

一静と動 裂帛の気合

宗像地区の空手道教室に より奉納される。

教室の師範・福岡教育大 生・並びに生徒の小中学生 八〇名により、基本の突き や、蹴りと、型が四通り、 そして福岡教育大生による 演武が行われる。

当日は約一時間に亘り、 本殿周辺に裂帛の気合が響 きわたる。

期日 十一月十八日(日) 演武会 午後十二時二十分 開始時間 午後五時
会場 本殿横境内

秋季奉納盆栽展

一秘蔵の盆栽を 一堂に展示

宗像地区の盆栽愛好家達 で構成する宗像大社奉納盆 栽会のメンバーが、日頃丹 精込められた約二 〇鉢の各種盆栽が、祈願 殿待合ロビーに展示され、 参拝者の目を惹きつけてい

団体戦にて開催される。 出場選手は、母校の名誉 と個人の栄光をかけて力の 限り奮戦、青い曇りの上で、 将来の山下泰裕を夢みて、 力と技の手に汗を流す、男 子の闘いを繰りひろげる。

この大会は、市・郡内中 学校の新人戦であり、日頃 錬磨した技術を発揮する絶 好の場でもあることから、 選手達にとっても大きな目 標の大会となっている。

期日 十一月十日(土) 試合開始 午後一時
会場 本殿横境内

拝観自由

午後五時迄

開催期間 十一月十一日(日) 十一月十 五日(木) 展示会場 祈願殿内一・三 階ロビー
拝観時間 午前九時三十分 午後五時迄
※観覧自由

宗像地区水道企業団

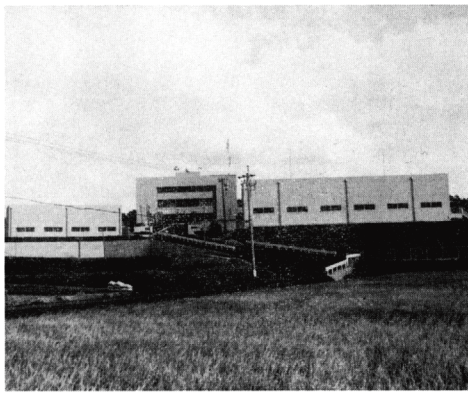
給水を始める

これで水不足も解消

神の郡宗像の中心部を流す水を、一市三町(宗像市・玄海町・津屋崎町・福間町)により、玄海町多礼三〇〇に建設された、宗像地区水道企業団(山田久吉企業長)の通水式が、十月一日午前十時より、天野市長を始めとする関係者出席の下に行われ、一市三町への給水を開始した。

この宗像地区水道企業団建設については、福岡・北九州両大都市のベッドタウンとして、近年とみに人口が増加している、宗像市・郡の水不足を解消することである。

昭和五十二年より、玄海町多礼・吉田のダム建設用地の買収をはじめ、昭和五十五年から、建設道路、吉田・多礼ダム、浄水場等の関連施設建設に着手し、昭和五十八年にはダム・諸施設が完成し、本年四月・五月の二ヶ月間に、玄海町牟田尻の川端橋下流に設けた井田せきよりポンプアップにて取水、多礼ダム(貯水能力百二十五万トン)と吉田ダム



この宗像地区水道企業団建設については、福岡・北九州両大都市のベッドタウンとして、近年とみに人口が増加している、宗像市・郡の水不足を解消することである。

八所宮の釣り鐘里帰り

吉留の里に四百年振りの鐘の音

広島の厳島神社に伝わる、宗像市吉留の「八所宮」(麻生正敏宮司)の釣り鐘が、十月六日、一年間の期限付きながら、里帰りした。

この釣り鐘は、応永五年(一三九八年)旧赤馬庄十ヶ村の氏子が、八所宮に奉納したが、豊臣秀吉が九州征伐(一五八七年)の際、戦利品として持ち帰り、厳島神社へ奉納した。

釣り鐘は青銅製で、高さ一・五メートル、直径六十センチ、重さ二百キロ、一熱識に折れ、この度の期限満了により、吉留の里へ戻り、元の氏子連が見つけ、地元の氏子連が、里帰りして以来、里帰り運動がはじまった。

当初、厳島神社側は、釣り鐘の返還に応じない様子だったが、長年に亘る交渉に、昭和五十六年には全氏子の署名を添えて、返還をお願いする等、氏子の熱誠に折れ、この度の期限満了により、吉留の里へ戻り、元の氏子連が見つけ、地元の氏子連が、里帰りして以来、里帰り運動がはじまった。

【授与品紹介】

車輦用御守 (5)

- ◇ビ木守 (びもくまもり)
- 軽自動車・自動二輪車・自転車用お守り

今回は、当大社に於いて授与する交通安全守札の中で、最もポピュラーなお守り札であり、ビニール袋に納め紙の緒を付けるとともに、裏面に両面接着テープをつけて、車内に吊り下げてお守りしていただくようにしてあります。

このビ木守は、古くから神社のお守りとして用いられている剣型木札の御守り(長さ六厘、巾二厘、厚さ〇・五厘、材質は松木)に、「宗像大社交通安全御守」の文字を、台紙の裏面に直接貼付してあります。



特に自動二輪車と自転車用として好評を得ています。又、一般参拝者の方からは、交通安全守札として、コンパ、自転車等のお守りとして、参拝の折りに受け取られる方もおられます。

恒例の注連縄調製

今年も見事な出来ばえ

今年も沖・中両宮奉賛会(会長長野野幸)による恒例の注連縄調製が、津宮境内に於いて行われ、十月九日、十月十日の二日、注連縄の調製が完了した。

注連縄の調製は、八月下旬、夏の暑気払いに先立って、先ず津宮へ参詣し、九月三日、九月四日の二日、注連縄の調製が完了した。

注連縄の調製は、八月下旬、夏の暑気払いに先立って、先ず津宮へ参詣し、九月三日、九月四日の二日、注連縄の調製が完了した。

郷土の秋祭り

それぞれの神社で斎行

宮地嶽神社 当社とゆかりの深い宮地嶽神社の秋祭りが、去る九月二十一日(三日)間、当社からの献幣使参向の下、盛大且つ厳肅に斎行された。

初日を飾る恒例の御神幸では、十三代目の御神幸に参列した。行列は午後一時すぎ七色の吹き流しに彩られた門前町を約六〇〇名に参列した。行列は午後一時すぎ七色の吹き流しに彩られた門前町を約六〇〇名に参列した。

宮地嶽神社 当社とゆかりの深い宮地嶽神社の秋祭りが、去る九月二十一日(三日)間、当社からの献幣使参向の下、盛大且つ厳肅に斎行された。

初日を飾る恒例の御神幸では、十三代目の御神幸に参列した。行列は午後一時すぎ七色の吹き流しに彩られた門前町を約六〇〇名に参列した。行列は午後一時すぎ七色の吹き流しに彩られた門前町を約六〇〇名に参列した。

宗像警察署の完成間近

一定礎式を斎行

去る九月二十三日に地鎮祭を執行し、井上建設株式会社の施工により建設中の宗像警察署の新庁舎がほぼ完成し、黄金色の稲穂がたわわに頭を垂れる。十月九日に定礎式の祭典が、当社神職二名の奉仕により、宗像警察署井上泰暢署長を始め、福岡県警察本部、工事関係者等参列の下、厳肅に斎行された。

祝詞奏上後、新警察署の清い執行を行い、お祈りを終えた新庁舎に、井上泰暢署長、並びに施工の井上広美社長の手に、

宗像警察署の完成間近、一定礎式を斎行。去る九月二十三日に地鎮祭を執行し、井上建設株式会社の施工により建設中の宗像警察署の新庁舎がほぼ完成し、黄金色の稲穂がたわわに頭を垂れる。十月九日に定礎式の祭典が、当社神職二名の奉仕により、宗像警察署井上泰暢署長を始め、福岡県警察本部、工事関係者等参列の下、厳肅に斎行された。



この注連縄調製には、六十号のブリ釣り専用のテグスを用いて締上げるとい

う、独特の方法で、調製された注連縄は、ほつれもなく、丈夫で大変上品な出来ばえであり、奉賛会自慢の注連縄である。

この注連縄調製については、各新聞社取材、翌日には各紙に掲載された。他では類を見ないこの調製方法は、今後各神社にも波及するのではと思われる。

尚、本年度の奉納された、古賀理、村上進両氏に対し、十月九日に斎行された、沖・中両宮秋祭大祭に於いて感謝状の贈呈式を執り行った。

この祖霊社は、明治初年の国家神道確立に伴い、当大社の社人、並びに氏子有志の人々が改宗、従来儀式にて祖先供養や祭事を行って来たものを、神式にて行う為に創建されたものである。

数年後には、御社殿の御造営も予定されており、木の香も新しい新たな御社殿にて、祖先の功徳に感謝し祭典が斎行される日も、そう遠くはない。

津屋崎町奴山に鎮座する、継殿神社の秋祭大祭が、秋晴れの十月五日、同神社氏子多数の参列の下、厳肅に斎行された。

祭典には、当社より献幣使が参向、幣帛を奉奠の上奉幣詞を奏上する慣わしとされている。

当日、御神輿を神輿にお遷しし、境内下広場の御祭所に奉安、その御神前にお祈りを奉告された。

地元の人々には、この織幡神社を「しゅくあん様」と呼称、篤い信仰を捧げている。祭典時刻には多数の参拝者が参集、五穀豊穣・大漁などが参集、海上安全の敬虔な祈りが捧げられ、祭典は無事終了した。

又広場にある土庫では、直会のドジョウ汁であるが、今日では農業の影響によりドジョウが全滅し、海魚汁に変わっている。高度経済成長の歪みか、こうした祭事にまで及び感慨深いものがある。

宗像警察署の完成間近、一定礎式を斎行。去る九月二十三日に地鎮祭を執行し、井上建設株式会社の施工により建設中の宗像警察署の新庁舎がほぼ完成し、黄金色の稲穂がたわわに頭を垂れる。十月九日に定礎式の祭典が、当社神職二名の奉仕により、宗像警察署井上泰暢署長を始め、福岡県警察本部、工事関係者等参列の下、厳肅に斎行された。

宗像警察署の完成間近、一定礎式を斎行。去る九月二十三日に地鎮祭を執行し、井上建設株式会社の施工により建設中の宗像警察署の新庁舎がほぼ完成し、黄金色の稲穂がたわわに頭を垂れる。十月九日に定礎式の祭典が、当社神職二名の奉仕により、宗像警察署井上泰暢署長を始め、福岡県警察本部、工事関係者等参列の下、厳肅に斎行された。

宗像警察署の完成間近、一定礎式を斎行。去る九月二十三日に地鎮祭を執行し、井上建設株式会社の施工により建設中の宗像警察署の新庁舎がほぼ完成し、黄金色の稲穂がたわわに頭を垂れる。十月九日に定礎式の祭典が、当社神職二名の奉仕により、宗像警察署井上泰暢署長を始め、福岡県警察本部、工事関係者等参列の下、厳肅に斎行された。

